



こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

とうきょう すくわくプログラム

活動報告書

久米川なかよし保育園

ふたばぐみ（1歳児）

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	久米川なかよし保育園
施設所在地	東村山市栄町1-6-1リシス久米川1階
法人名	有限会社 鷺沼なかよし保育園

1 活動のテーマ

4 探究活動の実践

音

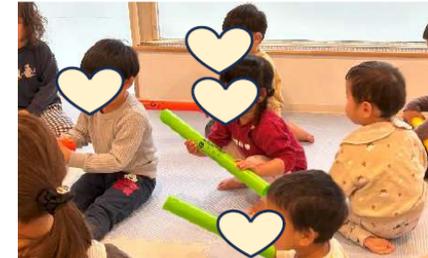
〈テーマの設定理由〉

テーマ③の展開として『楽器』にふれて音への興味関心を広げていく。音への興味は、廃材を使った音や、おもちゃの音の中で、鉄筋など高い音などに子どもの興味が多かった。
鈴、キーボード、カスタネットなど本物の楽器に触れる取り組みを実践したいと計画した

・ 楽器に触れる
ホールにミュージックパッドを置き子ども達がパッドの上を歩くと音が鳴る
「ん？」とはじめはどこから音が鳴ったのかわからない様子。音が鳴るのが楽しくなってくるとみんなパッドの上を歩いたり、ぴよんぴよん足ふみしたりして音を出していた。
初めて触れた、タンバリンや鈴、二つを重ね合い「こうかな？」と奏でる音を聞いていた
ひっぱると音が鳴るおもちゃでは自分で引っ張り音を出した後、友達や、保育士と端を持ち合い「せーの」でひばっていた。音を介してお友達とのコミュニティができていた

2 活動スケジュール

- ・ 様々な楽器を用意し楽器に触れる（3月）
- 1人では音を出すのが難しい楽器について、該当クラス以外にも園全体で、取り組む
- ・ 職員会議で活動内容の情報共有、職員で楽器を触って音を出してみる
- ・ 活動報告を掲示し保護者へ情報を共有する



3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

5 振り返り

〈素材・道具〉

鈴、タンバリン、チューブパイプ、ポップチューブ、キーボード、ミュージックポンプ、カスタネット

〈環境設定〉

- ・ 種類ごとにコーナーに分け興味のある場所へ自由に移動できるように環境を設定した。興味関心が集中し、子どもの活動が妨げられないよう、数を人数分用意し、活動の保証が行えるようにする
- ・ 保育者はあくまで、見守り、子どもからの発見や発信に耳をかたむける

楽器の概念の理解は難しいが、「これはどんなおと」と変化を感じることができたように思う。強弱で生まれる音の大小、子ども同士が楽しくなると大きな音になり、小さな音が聞こえると穏やかな気分になるなど自然と感じていたように見えた
集団で行ったパイプ音には保育士も夢中になり、「音はどうしたら出るのか？」探究を熱心に行っていた。子どももこういう気持ちなのかな？とワクワクする気持ちが共感できた。

1 活動のテーマ

音

2 問いを考える

テーマ3の展開として、
楽器に触れて音への興味関心を広げていく

3月 様々な楽器を用意し楽器に触れる

3 環境をデザインする 活動のために準備した素材や道具

- 鈴
- タンバリン
- チューブパイプ
- ポップチューブ
- キーボード
- ミュージックポンプ
- カスタネット

4 探究活動の実践



使い方 探し中

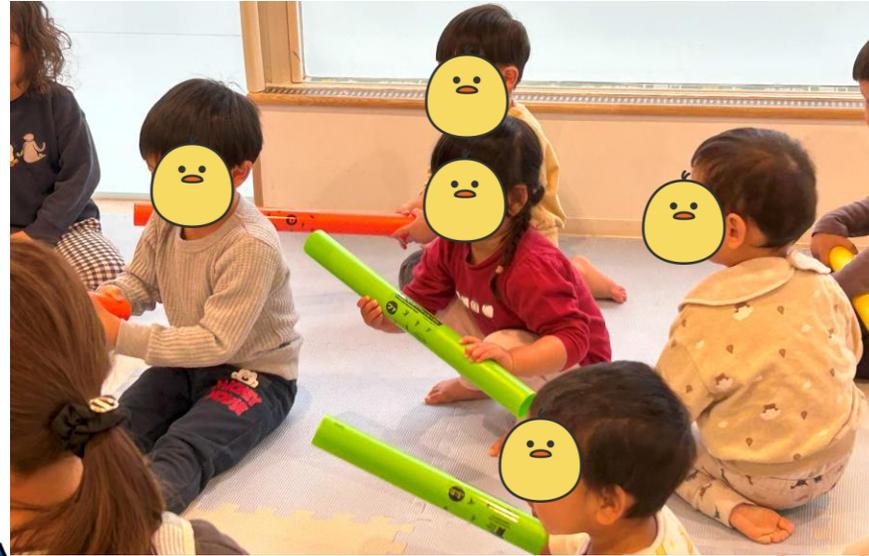


手を揺らすと「音なった！」

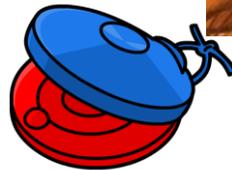
踏むと音が鳴るね。
そとそとと渡らなきゃ



降園の遊具に耳を傾けたよ
「カンカン」って音したね



カいっばい振ってもならない音いまだ
研究中



5 振り返り

音を通して相手との共感が生まれたような雰囲気がある。一人一人がじっくり楽しみ探究＝遊びの追求となっていたように感じる

一人遊びが主な年齢でも、一緒に音を出すことで生まれる相手への共同性が遊びを通して生まれた音を通じてのコミュニケーションがみられた。一人で出す音、みんなで出す音、力を合わせて出す音、子ども自ら積極的に楽器に触れていた

本物の楽器を用意したことで、音楽表現の幅が広まった。楽器の持つ響きや振動を体感できた。自分の慣らし方次第で音の高さや低さ、大小の大きさが変化することに気づいた子もいた。こうしたらどうなる？『音』への探求を自然と行っていた



音

大人も夢中になって楽器を慣らし、年齢問わずに楽器は共通のコミュニケーションだと感じた

今回は楽器に触れて音を鳴らしてみたが、子どもの興味関心はとても深く、回を重ねながら音を表現する方へ 探求が進むとよい

大人でも力の入れ方がわからなかった楽器もあるが大人が楽しむことで子どもへの興味関心も大きくなり、皆で一緒に取り組むことができた。職員の一体感もうまれ楽器を使って演奏を子どもたちへプレゼントしたい